

農場全体で意識を高めて

ネズミを撃退する!!!

畜産現場の重大な課題の1つとして、ネズミ対策がある。

暖かくなるこれからの季節、ネズミの活動が活発になり、さまざまな被害が拡大する。

今回はネズミ対策を農場全体で取り組み、

着実に被害を抑えている事例を紹介する。



ネズミ対策の重要性

畜舎で確認できるネズミの種類は、ドブネズミとクマネズミとハツカネズミの3種だ。ネズミの種類によって行動パターンが異なってくるので、ネズミ対策で最初に行うことは、被害を出しているネズミの種類の把握を行うこと。被害を出しているネズミにあつた対策を実施する必要がある。

ネズミの被害は、大きく衛生面と経済面の2つに分けられる。衛生被害としては、ネズミが病原体を媒介し、感染症を引き起こす原因になることがある。経済被害は、飼料の盗み食い、年間数十万円以上の被害となった例もある。

ネズミ対策の実施事例

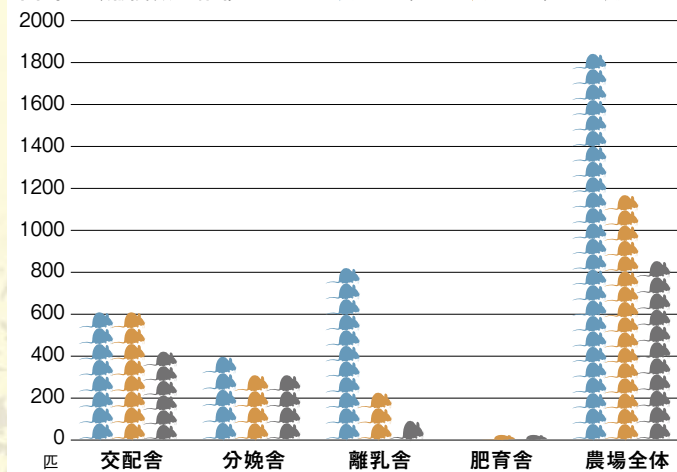
今回紹介する養豚農場は、母猪規模1000頭の一貫生産農場である。本農場では、長年ネズミの被害に悩まされ、過去にはネズミ駆除業者を採用して対策を行ったが、効果は十分感じられなかったとのこと。また、農場でのネズミ対策は各豚舎の担当者で行っていたが、ネズミ対策の効果の検証などを十分に実施することができていなかった。

本農場では月に一度5S会議を開催しているが、2013年12月の会議より議題の中にネズミ対策を含むようにし、現在は農場職員全員でネズミ対策を連携して行っている。各部門の責任者がネズミ

表.ネズミ駆除作業の一例(2014年6月)

日付	豚舎	内容	施工方法	使用数	捕獲数	備考
6月1日	交配舎	トラップ施工			3	
6月2日	交配舎				6	
6月3日	交配舎				3	
6月4日	交配舎				5	
6月5日	交配舎				2	
6月8日	交配舎	トラップ施工	粘着シート	18		
6月9日	交配舎				8	
6月10日	交配舎				7	
6月12日	交配舎				4	
6月27日	分娩舎	定期施工	粘着シート	40	2	
6月27日	分娩舎	定期施工				
6月7日	離乳舎A		毒餌A			
6月7日	離乳舎A		毒餌A			
6月7日	離乳舎A	天井裏	毒餌A		3	毒死
6月9日	離乳舎B	カーテン上、通路	毒餌A		1	
6月16日	離乳舎A	通路、機械室	毒餌B			
6月21日	離乳舎A	裏排気室	毒餌A			
6月30日	離乳舎A	機械室	毒餌B			
6月30日	離乳舎B		毒餌B			
6月6日	肥育舎	受入後の施工	毒餌A			
6月13日	肥育舎	受入後の施工	毒餌A			
6月20日	肥育舎	受入後の施工	毒餌A			
6月29日	肥育舎		毒餌A			
合計					44	

図.ネズミ捕獲数の推移



ミ対策実施日、実施内容、資材の使用状況、ネズミの捕獲数について報告を行う(表)。

当初、毎月第3週を一斉ネズミ対策週間としていたが、部署によっては指定週間以外にも実施したいとの意見があり、現在は現場の判断により「毎月第3週(必須)+都度」で対策を行うようにしている。

実施事項は、大きく分けて①整理整頓、②毒餌および捕獲トラップの設置、③ネズミ通路の遮断、の3つになる。

①整理整頓

ネズミの隠れ場所を無くすためにも、豚舎内はもちろん、豚舎周りの草刈りや整理整頓を徹底する(写真1)。綺麗な農場では、ネズミも姿を現しにくくなる。

②毒餌および捕獲トラップの設置

ネズミによって嗜好性が変わってくるため、さまざまな毒餌を試行し、一番よく食べる毒餌を設置する。本農場では、業務用天かすを用いた毒餌の効果が一番よかった。各豚舎で平面図を用意し、毒餌および捕獲トラップの設置場所を把握している(写真2)。設置場所ごとのネズミ対策の効果(捕獲数)を検証する。

③ネズミ通路の遮断

ネズミの通り道を遮断することで、ネズミの活動範囲を狭めることができる(写真3)。また、駆除後のネズミの再侵入を防ぐことができる。

ネズミ対策による効果

農場全体のネズミ対策に対する意識も向上し、農場全体で捕獲されたネズミの数は、11年度が1800匹以上、13年度は半分以下の855匹となった。今年度は更なる捕獲数の減少が見込まれる(図)。

今後も継続して農場全体でネズミ対策に取り組み、ネズミゼロの農場を目指す。

写真1.豚舎周りの草はネズミの隠れ場所となるので、草刈りを徹底する



写真3.侵入防止用の資材で遮断している様子



写真2.毒餌および粘着トラップによる捕獲